

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立鍋島中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 数学A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 数学B, 理科〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li> <li>・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li> <li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li> </ul>

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

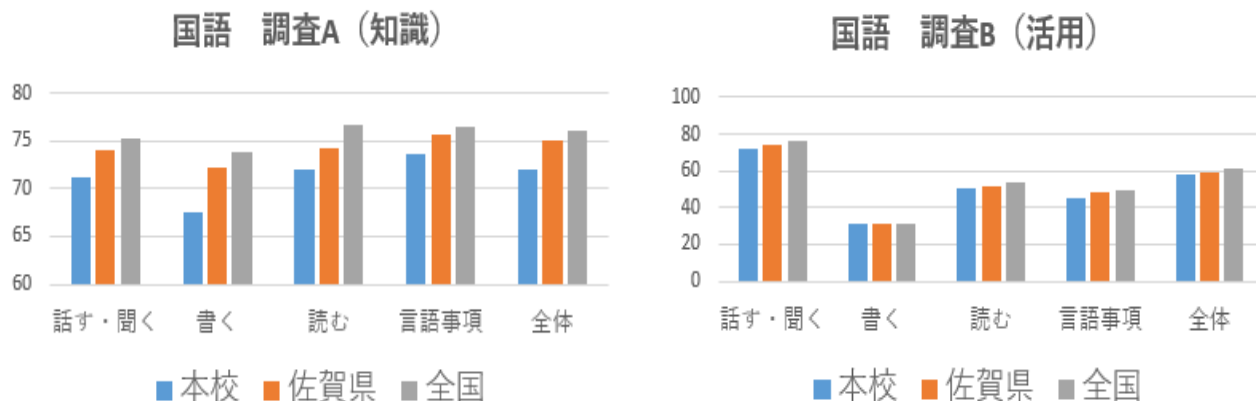
全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数), 理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



調査 A (知識) については各領域での平均が全国平均を下回った。調査 B (活用) については各領域の平均が全国平均とほぼ変わらない状況であった。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

集会など、話す場面を多く取り入れているため、のびのびと話せるようになりつつある。また、授業で意見を発表する際には、メモをするなどの準備をする時間をとったり、他の人の意見を聞いてメモをしたりするなどの機会を数多く設けていく必要がある。

##### 書く

生活の様々な場面で、書く活動を設定している。推敲し、よりよい文章にしようという意識をもたせる必要がある。また、参考になるような文章を読む機会を増やしたり、文章の構成の仕方などを身につけたりしていくことも大切である。

##### 読む

文脈に即して語句を的確に捉えることや、文章全体を読み、段落ごとの内容や段落の関係を適切に捉えることが難しい。文章を読む際に、構成や展開における工夫や効果を具体的に考えさせたり、文章を比較しながら読んだりする学習活動などを通して力をつける必要がある。

##### 言語事項

語句自体になじみがないために、意味が理解できていないものがあつた。語句の意味を辞書で確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用する必要がある。読書や新聞などを読むことで多様な語句に触れることも大切である。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- ・学習の見通しと振り返りを積極的に行うことで、何を学ぶのか、その結果、何が分かり、次の課題は何なのかを明らかにしています。
- ・グループやペアでの話し合い活動を通して、一人一人が主体的に学べるようにしています。
- ・書く活動を随所に織り込み、考えをまとめたり広げたり深めたりする活動をしています。

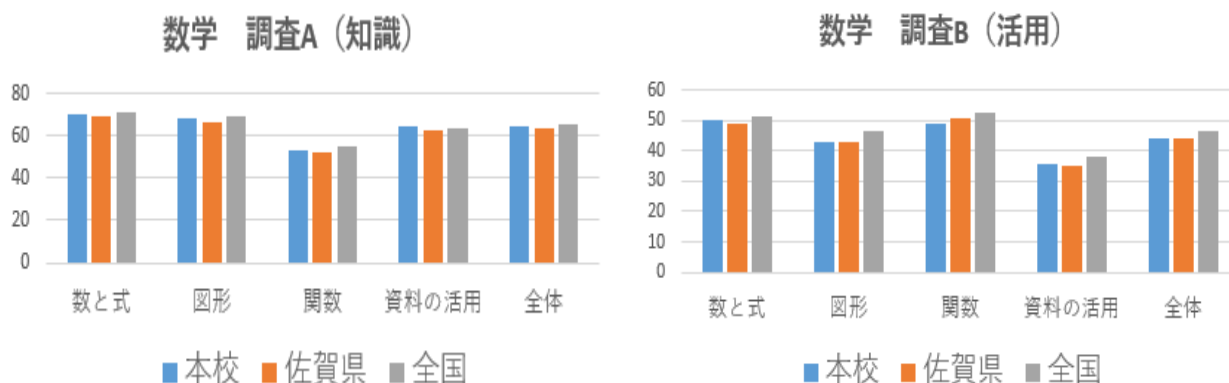
##### 【ご家庭では】

- ・新聞や報道番組に触れる機会を通して、ものの見方、考え方を深め広げています。
- ・漢字やことわざ、四字熟語などに、毎日、継続的に取り組んでいます。
- ・日常生活の中で読書に親しみ、豊かな知識と感性を育てています。

## 2 数学

### (1) 結果

### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題は全国平均とほぼ同じである。活用力を問うB問題「図形」や「関数」では、全国平均を下回っている。これは、問題場面における考察の対象を明確に捉えることができていないからであろう。

### (2) 成果と課題

#### 数と式

基礎的な四則演算の問題の正答率が高い。しかし、数量の大小関係を不等式に表す、数量関係を等式に表す問題への正答率は高くない。文章を読み取り、立式する能力が不足していることが課題である。

#### 図形

基礎的な用語に関する問題の正答率が高い。しかし、公式を活用した問題への正答率は高くない。公式を丸覚えするのではなく、公式の意味を理解することが課題である。

#### 関数

一次関数の基礎的知識は身につけているが、変域や値の増加量の問題は苦手としている。また、グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈し、問題解決に活用する能力を育てる必要がある。

#### 資料の活用

、1年次の「資料の活用」における基本的な「語句の意味」や「活用の仕方」を理解している。しかし、2年次の「確率」分野における技能が十分定着していない。演習を通して、確実に定着させていく必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 授業において、「めあて」と「ふりかき」を常に子どもたちに意識させた取り組みをします。
- なべまる君学習（グループ活動）やTT授業を取り入れ、毎日の授業の中で、一人ひとりのつまずきを早期に見つけ、支援をしていきます。
- 「学習クラスマッチ」を定期的を実施しながら、基礎・基本の徹底を図ります。
- 「週末課題」に取り組ませ、問題を解く楽しみや、できた達成感を高めます。

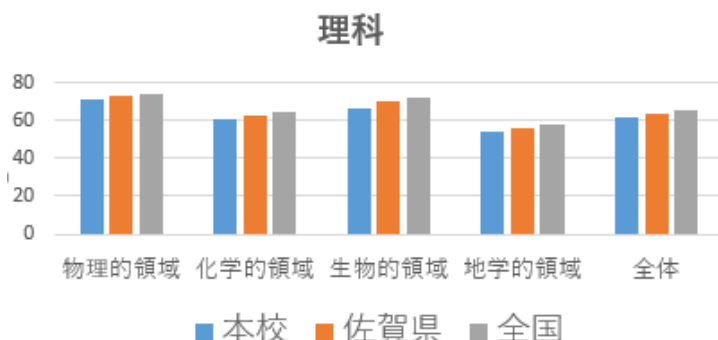
#### 【ご家庭では】

- 子どもたちが、「問題」を解いている様子を時々観察して、理解の様子を確認しましょう。
- 週末は必ず「週末課題」を持って帰っています。確実に取り組むよう声かけをしましょう。

### 3 理科

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



各領域で県平均を下回っている。「知識」と「活用」に関する問題を比較すると、「活用」に関する正答率が低い。ただし、観察・実験の技能に関する観点においては県平均を上回った。また、「知識」に関する選択式の問題においては県平均を上回る問題もあった。しかしながら、すべての問題において記述式の無回答率が高く、県平均を大きく下回っている。

#### (2) 成果と課題

##### 物理的領域

すべての単元で全国平均以下であった。知識理解の部分での正答率が低くなっており、既習の内容について復習する習慣がついておらず、内容を忘れている生徒が多い。

##### 化学的領域

多くの単元で全国平均を下回った。濃度に関する問題では平均点を上回っていたが、原子を記号で表す問題では大きく下回っており、既習内容の復習不足が指摘される。

##### 生物的領域

多くの単元で全国平均を下回った。特に神経の働きに関する知識で大きく平均点を下回った。体のつくりに関する知識の活用でも大きく下回っており知識の定着と共にその活用について指導を強化する必要がある。

##### 地学的領域

天気単元で、小笠原高気圧の特徴に関する知識の正答率が全国平均を大きく下回っている。最も正答率の低い活用力を問う問題では全国平均を上回った。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- ・授業の「めあて」を工夫し、その授業で何を理解すればよいのかをわかりやすくし、見通しを立てやすくしています。
- ・理科ノートで授業の「振り返り」をする時間を確保し、基礎・基本の定着に取り組んでいます。
- ・「実験」「観察」の考察や話し合い活動の時間を確保することで主体的に学べるように工夫しています。
- ・授業の内容と日常生活の事象や最近のニュースを結びつけ、科学に対する興味・関心を高める工夫をしています。

##### 【ご家庭では】

- ・科学に関するニュースに興味をもって見れるように、情報を与えています。
- ・学校で学習したことを振り返るための「プリント」や「ワーク」を課題としています。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

#### 《生活習慣について》

調査の項目	本校%	県%	全国%
朝食を毎日食べていますか。	81.3	93.3	91.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	78.7	76.5	73.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	91.2	92.3	90.3

- ・就寝時間と起床時間の習慣化が全国や県を上回っている。
- ・朝食を毎日食べる割合が、全国・県平均より下回っている。



#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	県%	全国%
平日3時間以上勉強している。	2.6	9.2	10.5
平日2～3時間勉強している。	23.3	21.0	25.9
平日1～2時間勉強している。	40.4	37.1	34.2
平日30分～1時間勉強している。	21.2	20.8	16.6
平日30分より少ない。	8.3	9.6	7.8
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	46.1	51.5	52.1
家で、学校の宿題をしている。	93.8	93.2	91.6
家で、授業の予習・復習をしている。	48.7	53.9	55.2

- ・学習時間の分布を見ると平日3時間以上の割合は、全国・県平均より下回っているが、平日2～3時間の勉強の割合は県平均を上回っている。
- ・学校の宿題については、90%以上の生徒がきちんと取り組んでいる。しかし、自分で計画を立てて勉強する生徒の割合は、全国・県平均を下回っている。予習・復習についても全国・県平均を下回っている。



#### 《その他の意識調査》

調査の項目	本校%	県%	全国%
自分には、よいところがあると思いますか。	76.1	78.9	78.8
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	77.7	80.2	73.2
将来の夢や目標を持っていますか。	72.1	71.3	72.4
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。	73.6	75.1	76.0
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	95.4	95.8	94.9
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。	50.8	60.5	58.3
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	35.7	39.5	38.9
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。	84.5	85.8	86.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	94.3	96.3	95.1

- ・すべての項目において、全国・県平均に近い数値になっている。
- ・多くの生徒が、充実した学校・家庭生活を過ごしていると思われる。
- ・いじめの項目において、昨年度と同様に県平均を下回っている。



## (2) 改善に向けての取り組み

### 【学校では】

- ・家庭学習においては、鍋島中校区の小中連携で作成した「家庭学習のパンフレット」を活用し、保護者との連携を図りながら家庭学習の充実に取り組みます。
- ・放課後等補充学習（3年生）を通して、予習・復習の充実に取り組みます。
- ・毎月1日の「いじめを考える日」を充実させ、いじめに対する意識をさらに向上させます。

### 【ご家庭では】

- ・家庭学習が定着するよう、本校や県が作成した「家庭学習のパンフレット」を活用されながらご支援をお願いします。
- ・ゲームやSNSに時間を使い過ぎないように、時間などについて、家庭での約束ごとを決めてください。

### 家庭学習パンフレット

## 家庭学習の充実にむけて 開成小・鍋島小・鍋島中

学習を進めていく中で、鍋島中学校校区の3校では、3つの玉を大切にしていきます

### がまん玉

やりたいことも

がまんして親子で

学習に向かおう

### みがき玉

苦手なことにも

こつこつ取り組み、

自分をみがこう

### みつけ玉

学習のおもしろさや

自分の得意なことを

見つけよう

#### ■■ 家庭学習の進め方 ■■

- テレビを消して、静かなところで
- 毎日、決まった時間に決まった場所で
- 机の上は整理整頓、姿勢を良くして
- まずは宿題、すんだら自学（自主学習）

